

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年1月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670400219
法人名	医療法人 二三和会
事業所名	グループホーム わかば
所在地	鹿児島県枕崎市若葉町85番地 (電話) 0993-73-5101
自己評価作成日	令和5年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・気持ちの良い言葉での声かけ・笑顔・笑い声のある心地良い環境作りを心掛けている。自分の身内・家族のように接することで、我が家にいるような気持ちになって楽しく過ごして頂けるように、アットホームな生活環境作りを大事にしている。

・地域の行事に参加したり、戸外で季節の行事に触れたり、定期的に他施設や近隣の保育園とも積極的に交流していたが、新型コロナの影響にて、交流ができていない。イベントは、わかば内でスタッフと入居者様で行っている。

・毎月、わかばだよりの発行や入居者様の日頃の写真を多数掲載する事で、遠方にいるご家族や知人の方にも現在の暮らしぶりや笑顔をお届けできるように取り組んでいる。

・新型コロナの影響で、行事・活動や外出・外泊が制限されている中で、閉じこもりにならないようにホーム周辺を散歩したり、自宅前や遠方へのドライブを行うなど外出支援に努めている。

・運営推進会議で行政、地域住民、家族、職員との意見交換を行いサービスの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、運営母体の医療機関と24時間の医療連携体制が整っており、職員同行の定期受診支援が行われていることから、家族の医療における安心となっている。

・運営推進会議は、コロナ禍の中でも市の協力で会場を確保し対面で実施しており、意見交換等での意見をサービス向上に活かしている。

・地域との交流はまだ困難な状況であるが、保育園児の来訪を受けたり、散歩時の住民とのあいさつ、避難訓練の住民参加等、交流に努めている。

・年間計画を立てて初詣や季節の花見等に出掛けたり、受診時に自宅付近へのドライブも行っている。

・家族との窓越し面会や電話での交流を支援し、わかば便りでの近況報告を毎月発行して、家族とのつながりが途切れないように取り組んでいる。

・管理者は、資格取得や研修受講を支援し、職員の質の向上を図るとともに、職員間の良好な関係を維持し、勤務時間内に業務を終わらせる取り組みで、働きやすい職場環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた仕事ができるよう目の付くところに貼り、理念を意識しながら職員全員で共有し入居者様の尊厳を大切に、日々のケアに当たり努力している。	理念は重要事項説明書に掲載し、目につく玄関・リビング・トイレに掲示し常に意識してケアに取り組んでいる。ケアの振り返りはミーティングやお茶の時間に行い、支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様は新型コロナの影響で、現在は自粛しているが、職員は通勤時等、声かけ・挨拶行っている。	自治会に加入しているが自治会の事業が中止されている。近隣住民の運営推進会議や避難訓練への参加協力、保育園児の来訪やホームでできた野菜を近隣の住民にお届けする等の交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議において民生委員や地域代表の方に出席して頂き、理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時、事業所の報告を行い、出席者より意見・質問・要望等を受けながら、ミーティングで検討し、サービスの向上に努めている。	市民会館を借りて2ヶ月に1回の運営推進会議を実施している。事業所の状況報告及び意見交換を行い、コロナウイルス感染症5類移行後の家族との窓越し面会の実施等、行政からの情報や委員の意見を事業所のサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や毎月の報告書等を届ける際に実情を伝えながら、協力関係を築くように努めている。	市の担当者とは、運営推進会議の会場確保への協力を受けたリ、運営推進会議時の意見交換や窓口に出向いて報告・相談等を行い連携を密に取っている。市の研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングの際、身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束の弊害を理解し、普段より拘束はしないケアをしようとして意識し、身体拘束は行っていない。玄関は施錠せず、センサーにて見守りを行っている。	指針があり、委員会及び研修会を3ヶ月に1回実施している。スピーチロックは気づいた時に本人に注意を促すとともに研修でも取り上げている。日中の玄関の施錠はせず、外出希望の利用者には散歩に同行する等、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い、虐待のないケアを実践している。スピーチロックにならないよう、個々の職員が意識を持って支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行った。必要に応じて活用できるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時や改定時は、個別や全体に説明を行い、理解・同意を得られるようにし、契約書や同意書に署名して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関にアンケート・苦情相談ポストを設けている。また、行事や面会時に入居者様・ご家族の意見を把握するようにしている。</p>	<p>利用者には日常会話で要望を聞き、食べたい物は誕生日や行事に取り入れている。家族には面会等の来訪時に要望を聞いており、対面面会の希望については感染予防のため見合わせていることを理解してもらっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングや、年2回の個人面談にて意見や提案を聞き、反映できるようにしている。</p>	<p>管理者は、年2回の個人面談やミーティング・お茶の時間等に職員の意見を聞いている。職員の意見を受け、勤務時間内の業務遂行を確実にを行うことを全員に確認する等、反映に努めている。個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人用目標シートや出来る職員の行動の冊子を利用しながら、各自が向上心を持って働けるように努めている。年2回の個人面談時要望を把握するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新型コロナの影響により、研修会が少なくなったのと、感染予防の為、限られた研修会のみに参加している。また、毎月のミーティング時に勉強会や意見交換を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>お互いに運営推進会議に出席し、情報交換を行っている。また、ネットワークづくりにも努めている。</p> <p>新型コロナの影響により、研修への参加、交流が行えていないが情報交換行って行けるよう努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とコミュニケーション図り、不安に思っている事や要望などを聞いている。また、できるだけ家族にも声かけを多くし、情報を得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や契約時、入居時等、ご家族が困っている事、不安に思っている事、要望等を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前利用していたサービス事業所の情報や、本人・ご家族より情報を聞き、必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけ見守りを行いながら、掃除や洗濯物たたみ・お膳拭き・庭の草取りなど入居者様の能力に合わせ、一緒にして頂きながらゆっくりと行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、衣替え、身の回り品の購入や持ち込み、専門科の病院受診時など、ご家族に協力を頂き共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が、気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りに努めている。また、遠方からの贈り物が届いた時に、お礼の電話など行い関係維持の支援を行っている。	家族との窓越し面会や電話での交流を支援している。事業所から毎月「わかば便り」を送付して近況報告を行い、家族との関係が途切れないように努めている。受診時に自宅付近へのドライブをすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように常に席の配置を考慮している。雰囲気大切にしながらスタッフが間に入り、楽しい会話ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先に状態を聞き、病院の相談員や家族に連絡して状態把握しながら、家族の相談にも応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の基本情報シートにて入居者の人生・暮らしについて希望を記入していただいている。計画変更時にも、その都度思いや意向の聞き取りを行っている。	日常会話の中で本人の思いを把握するように努めており、離れて暮らす子どもに会いたいとの希望を家族に伝え、面会に来てもらったこともある。困難な場合は、家族やアセスメントの情報を参考に表情等から推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シート、暮らしの情報シート、在宅時のケアマネ・主治医からの情報提供書等を活用し把握に努めている。また、面会時にも声かけし情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、申し送りノート、3ヶ月の1回モニタリング、支援経過記録、月1回のミーティングにて現状の把握に努めている。報連相をしっかりと行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族からの意向の確認、主治医や関係スタッフから情報収集を行い、それぞれの意見やアイデアをチームで共有し、現状に即した介護計画を作成している。	電話や面会時に家族の希望を聞き、日常の生活状況やミーティングでの職員の意見を入れて介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、計画の見直しは6ヶ月～1年毎に実施している他、状況変化等の必要時にも現状に合った介護計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、介護日誌、支援経過記録を使用し、職員間で情報共有を図り、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて出来ない事は、スタッフが支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までは保育園やお話の会・夏祭り・花見・地域行事の十五夜やほぜ祭りに参加できるように支援してきたが、本年度も新型コロナの影響でできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人・家族の意向に沿い、かかりつけ医を選択していただき、協力病院にはスタッフが同伴し、他の医療機関には家族と必要に応じてスタッフが送迎し受診支援を行っている。受診時は都度かかりつけ医への情報提供や報告・相談を行っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認しており、他科受診を含めて家族の協力も得て受診を支援している。母体医療機関と緊急時を含めた24時間医療連携体制が整っており、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>気づいた事は看護師に伝え、受診したり様子観察で良いか判断したりしている。また、必要に応じて主治医に電話で相談し受診等を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は毎回情報提供書を作成している。入院中は状態把握をする為に電話等で相談し、病院関係者より情報を得るようにしている。また今後についても相談を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時や入居途中で重度化した場合等についての考えを尋ねるように努めている。また、担当者会議や状態変化があった時に話し合っている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について、母体医療機関での終末期受け入れが可能であることを含めて説明している。状況変化時に家族の意向を確認し、事業所でできる支援に取り組んでいる。看取り介護は事例がある。今後、希望があれば検討する予定である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時は看護師への連絡や、応急手当の方法を説明をしている。また、アクシデント等があった際は、全員でミーティングを行い今後の対応を検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>新型コロナの影響で年2回の消防・避難訓練を事業所スタッフのみで行った。自衛消防組織図を作成し、災害時に自分は何が担当か職員全員に周知徹底している。</p>	<p>年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、2回とも消防署の指導を受けている。1回は隣接施設と合同で近隣住民の参加を得て実施し、1回は単独で実施している。非常用の備蓄は、法人で確保しており、事業所では、1～2日分の水・ごはん・レトルト食品・インスタント麺等の食料、及びカセットコンロを確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄・更衣など支援の際には他者の目に触れないように扉を閉めたり、自尊心や羞恥心に配慮した声かけを行って本人の負担にならないよう対応している。	日常の関わりの中で、さん付けで呼びかけ、入室時・ケア前の声掛け、排泄介助時のさり気ない声掛け・戸を閉める等、誇りやプライバシーを損ねないよう、羞恥心にも配慮し取り組んでいる。申し送りは内容がわからないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者の好きな事、嫌いなことを把握して、丁寧な声かけを行い自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、無理なく過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で出来る方には入浴後に着る衣服等を準備して頂き、各行事やイベントの際は、家族が準備して下さった衣服を着用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食事の好き嫌いや禁忌・咀嚼・嚥下の状況等把握し、一人ひとりに合わせた食器、食事形態で提供している。行事食や誕生日会食等に変化を持たせ、食べる楽しみに配慮し提供している。	法人の栄養士の献立を参考に、個々に合わせた食事形態で提供し、利用者も一緒にテーブル拭きを行っている。季節の行事食や誕生会のケーキ・好物、外注弁当等で、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士にアドバイスを頂き、献立表を作成している。食事量はその人に合わせ提供し、毎日摂取量を記録している。また、毎日水分量をチェックしながら、必要量が摂れる様に飲み物にも工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守り・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間誘導を行ったり、個々の排泄パターンを把握し、時間に関係なく本人の希望に添い、声かけ等を行って排泄の誘導、排泄後の介助を行っている。	時間誘導や排泄パターンを参考に声掛け・誘導を行い、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。利用者の仕草や態度による声掛け誘導で失敗が減少した事例もある。夜間は、身体状況等によりポータブルトイレを使用する利用者がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しながらトイレ誘導や、腹部マッサージ、緩下剤等利用している。廊下歩行や体操など運動への働きかけを行っている。出来るだけ水分を摂って頂く様に、飲み物の工夫も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の体調やタイミングに合わせて、本人が嫌がる時には無理せず曜日を変えるなどして、無理のないように週2回の入浴を行っている。	週2回午前中の中の入浴を実施し、浴槽とシャワーの使用が半々で、必要に応じ移乗時の2人介助を行っており、安心して個浴を楽しんでいる。嫌がる場合は、無理強いせず日を改める等の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や意向に合わせて、午後のおやつ後や昼食後等にベッド臥床して頂いている。部屋では寂しい方にはソファでゆっくりできるように環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬管理を行い、症状の変化・副作用等の観察を行い、状況に応じて主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干したたみ・お盆拭き・新聞紙たたみ・ポリデントの袋詰め等、個々の能力に応じて手伝って頂いている。塗り絵、カラオケ、ドライブなどできるだけ本人のしたい事・意向に沿えるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナの影響で、できるだけ近所を散歩したり、ドライブに出かけることを、職員のみで支援している。	毎日近隣の散歩に出かけている。年間計画を立てて、初詣や季節の花見に出掛けている。受診時に遠回りして自宅付近や海岸をドライブすることもあり、できるだけ出かけられるように工夫して取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の所持が困難な為、個別に家族より預かっている。希望時一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠くに住んでいる家族の方からの贈り物が届いた時は、お礼の電話が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに飾りつけを行い季節感を取り入れている。冷暖房・照明・カーテンなどをうまく利用し快適に過ごせる様に配慮している。毎日掃除機かけや拭き掃除を行っている。	リビングは空気清浄機や加湿器・エアコンで温湿度を調節し、カーテンでの遮光、窓を開けての換気、季節の飾りつけ等で、過ごしやすい室内環境づくりをしている。利用者が自由にソファやウッドデッキのベンチでくつろげるよう、車いすの動線に配慮してテーブル等を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士並んでお話ができるように、席配置したり、ソファへの声かけ誘導を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や誕生日会の色紙など貼っていけるように、コルクボードを各室に設けている。色紙も入居者様の担当の職員が工夫して、感謝とお祝いの気持ちが伝わるように作っている。	居室には、ベッドやたんす・エアコンが備えてあり、寝具はリースで清潔に保たれている。コルクボードもある。利用者は、使い慣れた毛布や時計を持ってきたり、写真や色紙をコルクボードに貼り、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は廊下やトイレ内に手すりを設置し、また、ベッドには能力に応じた介助バーを設け、残存能力の活用を図っている。自室・トイレ・洗面所・風呂場・自席がわかるように表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない